

尿検査総合搬送システム

仕様書

令和4年11月

奈良県総合医療センター

(調達物品に備えるべき技術的要件)

1. 尿自動分析装置については以下の要件を満たすこと。

- 1-1 測定項目は pH、ブドウ糖、潜血、蛋白質、ウロビリノーゲン、ケトン体、ビリルビン、亜硝酸塩、比重、白血球、**アルブミン、クレアチニン**、色調、濁度を全自動で測定できること。
- 1-2 測定原理にカラーCMOSセンサーを取り入れた画像解析システムが採用されていること。
- 1-3 同時に3種類の試験紙をランダムに測定できること。
- 1-4 薬剤によるビリルビン偽陽性を測定機器で自動陰性化補正できること。
- 1-5 分析装置1台での1時間あたりの検体測定数は最大276検体以上であること。
- 1-6 検体の取り違いミスを防止する為に検体バーコードを使用し試験管に貼り付けられたバーコードを自動で読み取りできる機能を有していること。
- 1-7 緊急割り込み測定ができること。
- 1-8 全自動尿中有形成分分析装置と共通のラックが使用でき、業務の効率化が図れること。
- 1-9 検体吸引量は 0.23 mL 以下であること。
- 1-10 精度管理用のコントロール物質が病院機能評価等に必要な2濃度用意されていること。
- 1-11 上位コンピューターとオンライン接続することができること。
- 1-12 測定結果はリアルタイムに上位コンピューターへ送信できること。
- 1-13 分析装置は実験台に設置できる卓上タイプであること。
- 1-14 搬送システムに接続可能なこと。
- 1-15 全自動尿中有形成分分析装置との搬送接続が可能なこと。

2. 尿中有形成分分析装置については以下の要件を満たすこと。

- 2-1 10 検体ラックに無遠心尿をセットして測定できること。
- 2-2 検体架設数が 50 検体以上可能であること。
- 2-3 検体番号バーコードラベルを自動で読み取る検体自動識別機能を有すること。
- 2-4 検体処理能力は 1 時間あたり最大 105 検体以上であること。
- 2-5 半導体レーザーを用いたフローサイトメトリーにより、尿中の有形成分を測定し、赤血球、白血球、上皮、円柱、細菌を含む 5 項目以上の定量値を表示できること。
- 2-6 半導体レーザーを用いたフローサイトメトリーにより、赤血球形態情報のフラグを表示できること。
- 2-7 各成分を蛍光染色することにより、高い分離能を実現していること。
- 2-8 尿の遠心分離や標本作成等の前処理が不要であること。
- 2-9 尿中有形成分測定のための測定で必要検体量は 2mL 以下であること。
- 2-10 測定結果は定量的な測定をもとに/ μl 及び/ μl から/LPF、/HPF 等に換算されたデータが得られること。
- 2-11 体液(腹水、胸水など)を前処理なしで測定できること。
- 2-12 装置の維持管理、精度管理に有効なネットワークサービスに対応した機能を有すること。
- 2-13 日々のメンテナンスは容易・短時間であること。